

# 共通テスト 国民的な議論必要

## 共通1次 息切れした個別試験の改革

2021年から始まる大学入学共通テストは、共通1次試験や大学入試センター試験をふまえると、どう見えるのか。東北大が開いたフォーラム「入試制度が変わるとき」に登壇した研究者2人に聞いた。まず、1979年から11年続いた共通1次に詳しい筑波大学の大谷奨アドミッションセンター長から。

### 変わる大学入試 2020

#### 筑波大・大谷奨アドミッションセンター長に聞く

共通1次試験をいま、と、高校間の評価水準の格差を補正するための広域的な共通テストの開発と、その利用を提言した。高校の学習成果をきちんと見るのがねらいの大学の求める力を見る。その方法はセンター試験に引き継がれ、大学入学共通テストでも変わらない。原点の課題を確認しておくのは意味がある。

イメージの払拭が課題となっていた。この状況でも教科7科目の共通試験を1次試験とし、2次試験を組み合わせる案が固まる。これが共通1次試験となるが、その実施に合わせ、1期校と2期校が一本化された。

高校側は面接や小論文の実施を期待した。だが国大協は学科試験に軸足を移していった。2次試験では「共通1次に課せられていない科目」は出題できるとして、理系で数学Ⅲや物理Ⅱなどを出す道を開いた。

共通1次では2次試験の改革が息切れた。当時の資料によると、始まった当初は小論文を40大学、面接を23大学が課していたが、続かなかつた。今回の改革も個別試験を重視するというが、各大学で採点や面接の人員などの手当てに関する議論が少ない。

共通1次は大学入試センターの新設が法改正を伴ったため、国会で広く議論された。だが、今回の改革では教育再生実行会議や中教審で審議されたものの、高校や大学で議論が深まったとは思えない。大学入学共通テストの内容が大きく変わるの、新しい学習指導要領に対応する2025年だ。それも見すえて高校、大学はもちろん、国民的な議論が必要だ。



共通1次試験で「必勝」の鉢巻をして教室に向かう受験生  
1980年1月12日、東京大学

#### 高校の学習測る

60〜70年代の受験競争は今より激しく、大学が個別に入試を行い、難問・奇問の頻出が問題になっていた。それに対し、文部大臣の諮問機関である中央教育審議会は71年、高校からの調査書を基礎資料

として、調査書の利用は掘り上げられてしまい、共通テストは、大学の2次試験の前の1次試験との位置づけになってきた。

「二期校は滑り止め」という

「二期校は滑り止め」という



おおたに・すすむ 筑波大学人間系教授（教育制度学）。著書は「戦前北海道における中等教育制度整備政策の研究」と「現代教育改革と教育経緯」（共著）。

- 1971年 中央教育審議会が調査書を基礎資料とし、高校間の評価水準の格差補正のための共通テストを利用することを答申
- 77年 大学入試センター設置
- 79年 共通1次試験が始まる
- 85年 臨時教育審議会が1次答申で「国公立大が自由に利用できる共通テストの創設」を提言
- 90年 共通1次試験に代わり、私立大も参加する大学入試センター試験が始まる

#### 序列化を招いた

「どんな課題が残されて